

病害虫情報 No.3

茨城県病害虫防除所

小麦の赤かび病の防除を徹底しましょう！

小麦の農産物規格検査の赤かび粒の混入率は0.0%です。

適期防除を行い、赤かび粒の混入を防止しましょう。

[現在の状況]

本病は、開花期～その後約10日間が最も感染しやすく、この間に降雨があり、気温がやや高くなると発生が多くなる。5月第2半旬現在、県内の小麦は概ね開花期にあり、この時期に気温は低いものの、降雨が数日あった。

向こう1ヶ月の気象予報（5月9日発表）によると、天気は数日の周期で変わり、降雨が多いと予想されている。

[防除対策]

本病の防除適期は開花期（出穂後7～10日頃）であるが、開花期～10日後程度の間が特に感染しやすい時期であるため、時期を逃さぬよう薬剤散布を行う。

1回目の薬剤防除後に降雨が続けば、7～10日後に2回目の薬剤防除を確実にを行う。その際、出穂期以降1回しか使用できない薬剤があるので注意する。

倒伏や収穫の遅れにより発生が助長される恐れがあるため、排水対策や適期収穫に努め、赤かび病の発生した圃場は刈り分ける。また、収穫後は速やかに乾燥・調製（粒厚選別2.3～2.4mm）を行う。

表 赤かび病に登録のある主な薬剤（平成20年5月1日現在）

散布方法	薬剤名	希釈倍数	収穫前日数 -本剤の使用回数	対象作物	有効成分
無人ヘリ	トップジンMゾル	8倍	14-3(出穂期以降は2)	小麦	チオファネートメチル
	チルト乳剤25	8倍	7-3	小麦	プロピコナゾール
地上散布	トップジンM水和剤	1,000～1,500倍	14-3(出穂期以降は2)	小麦	チオファネートメチル
	ベルコート水和剤	1,000～2,000倍	21-3(出穂期以降は1)	小麦	イミダクジン
	ベフラン液剤25	1,000～2,000倍	14-3(出穂期以降は1)	小麦	
	ストロビーフロアブル	2,000～3,000倍	14-3	麦類	グリホサートメチル
	チルト乳剤25	1,000～2,000倍	3-3	小麦	プロピコナゾール
	コロナフロアブル	400倍	-5	麦類	硫黄

ベルコート水和剤またはベフラン液剤25は、いずれか1回の使用となります。

農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用方法・注意事項等を確認のうえ使用してください。

また、薬剤散布の際は、周辺作物等への飛散（ドリフト）に十分注意してください。